

ゆかしき まち 縁織の町

—ゆかりある空間のおりなすまち—

市街地整備構想

- 上地区画整理事業等を契機として、骨格となる道路の整備とともに、地域の歴史的資源等と地区内の空地等を織り成すように、オープンベースネットワーク（“おりなす空間”）を形成する
- これらの空間は、安全・安心で縁がかな場所を提供するとともに、地域やその歴史などに縁ある活動の場として利用される



提案趣旨

小幡・満住地区（以下、対象地区）は、日光街道とともに発展してきたその歴史的経緯から、見世蔵や神社・仏閣など数々の歴史的資源を有している。また、衆町やユニオン通りなど魅力ある商業地域を擁している。その一方、接道不良や狭小道路などによる安全面での課題、人口減少や商業衰退などの問題に直面している。

本提案は、対象地区の街区内に点在する底未利用空地の存在に着目し、土地区画整理事業の実施やそれにともなう都市計画道路の整備とともに、それら空閒的な隙間を繋ぎ成すように、ネットワーク化し、地域の歴史的資源と結びつけることにより、地域や歴史に縁のある場を創り出すことで、安全面での課題や、産業衰退、人口減少などの問題解決を目指すものである。

具体的には、「おりなす空間」や「おりなす道」（以下、「おりなす空間」）と呼ぶ、オープンベースネットワークを構築し、回遊ルートを確保するとともに、都心商業業務地を支援する場として活用する。特に、住宅地では地域居住に密着した活動の場、満住町通りなどの商業地では、歴史的・地域の資源等と密接に関連した商業・展示活動の場（伝統工芸、地域産物、ジャズ、カクテルなどの商い・展示の場）や寺社・仏閣に起源する縁日の的な商業空間の場として機能させる。なお、都市計画道路沿道（南北北方向）は、住と商を結ぶ中間媒体として、職社一体の戸建の空間を形成する。

これら空間は、緩やかな街区単位の調整型土地区画整理事業とともに、新たに編成される地域のまちづくり組織を主体とした、エリアマネジメントによる多様な空間確保の手法により達成される。

この「おりなす空間」というオープンベース型の空間的触媒により、居住面での安心・安全の確保、商業・産業面での活性化と歴史的資産の再活用を促進させる。

地域に縁ある活動のための空間が織り成すまちの将来像、それが『縁織の町』である。



□市街地整備のコンセプト

■主な地域資源

■ランダムマーク

骨格となる道路の整備とともに、地域の歴史的・文化的なランダムマークと連携する小道（「ゆかしき通」）を、既存の利用使いこなす計画

「ゆかしき通」

「ゆかしき通」